

平成26年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年10月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,118億円余
2. 前年同月比	0.5% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.8%(90.9%) : 非店頭-10.4%(9.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956㎡ (前年同月比:-2.4%)
6. 総従業員数	18,885人 (前年同月比:-0.4%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	2-4月 7.1%、3-5月 4.3%、4-6月 -6.3%、 5-7月 -3.2%、6-8月 -1.6%、7-9月 0.0%

[参考] 平成25年9月の売上高増減率は3.6% (店舗数調整後)

【9月売上の特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、休日減少の影響があったものの、都内各店で動員力の大きい地方物産展や各種優待セールなどの集客施策を積極展開した結果、前年並みの水準で堅調に推移した。
- (2) 主力の衣料品 (+3.1%) は、中旬までの気温低下で、コート、ジャケット、セーター等の秋冬物の需要が伸び、紳士 (+5.3%)、婦人 (+2.7%)、子供 (+2.5%) いずれもが前年実績をクリアして、全国平均を超える水準で好調に推移した。上質なものを求める消費者の価値志向を背景とした、商品単価の向上も売上を押し上げる要因となっている。
- (3) 高い伸びを示した化粧品 (+7.6%) やラグジュアリーブランドを含む身のまわり品 (+1.3%) の堅調さの背景には、外国人観光客の購買による底上げ効果もある。
- (4) 休日減少の影響を受けやすい食料品 (-0.4%) についても、地方物産展等の食品催事が活況であったことから、ほぼ前年並みの結果に収まった。
- (5) 東京地区の10月中間段階(10月15日)までの商況は、二週連続で台風上陸の影響を受けたことから、前年比約3%強のマイナスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 10店、②変化なし: 5店、③減少した: 3店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、秋分の日/お彼岸)の売上 (同上/有効回答数10店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 5店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	111,888,157	100.0	0.5
紳士服・洋品	9,012,650	8.1	5.3
婦人服・洋品	24,104,523	21.5	2.7
子供服・洋品	2,016,034	1.8	2.5
その他衣料品	2,143,750	1.9	-1.0
衣 料 品	37,276,957	33.3	3.1
身のまわり品	16,195,906	14.5	1.3
化粧品	7,457,664	6.7	7.6
美術・宝飾・貴金属	7,104,357	6.3	-5.8
その他雑貨	5,318,670	4.8	-8.0
雑 貨	19,880,691	17.8	-1.8
家 具	1,745,448	1.6	-5.4
家 電	545,045	0.5	-8.0
その他家庭用品	3,855,038	3.4	2.0
家 庭 用 品	6,145,531	5.5	-1.2
生 鮮 食 品	4,326,729	3.9	-2.3
菓 子	6,690,329	6.0	1.0
惣 菜	5,938,685	5.3	0.4
その他食料品	8,013,196	7.2	-1.2
食 料 品	24,968,939	22.3	-0.4
食 堂 喫 茶	3,054,477	2.7	-1.7
サ ー ビ ス	2,199,878	2.0	-0.8
そ の 他	2,165,778	1.9	-5.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,199,703 千円	5.0
従 業 員 数	18,885 人	-0.4
店 舗 面 積	854,956 m ²	-2.4

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、身のまわり品が3か月連続、衣料品が2か月連続のプラスとなった。また、雑貨、家庭用品、食料品はマイナスとなった。婦人服・洋品が6か月ぶりのプラス、紳士服・洋品、子供服・洋品、化粧品が3か月連続、その他家庭用品、菓子、惣菜が2か月連続のプラスとなった。その他では、先月より家具のマイナス幅が縮小した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.5	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	5.3	0.4	3か月連続プラス
婦人服・洋品	2.7	0.6	6か月ぶりプラス
子供服・洋品	2.5	0.0	3か月連続プラス
その他衣料品	-1.0	0.0	3か月ぶりマイナス
衣料品	3.1	1.0	2か月連続プラス
身のまわり品	1.3	0.2	3か月連続プラス
化粧品	7.6	0.5	3か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-5.8	-0.4	6か月連続マイナス*
その他雑貨	-8.0	-0.4	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-1.8	-0.3	2か月ぶりマイナス
家具	-5.4	-0.1	6か月連続マイナス
家電	-8.0	0.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	2.0	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	-1.2	-0.1	6か月連続マイナス
生鮮食品	-2.3	-0.1	6か月連続マイナス*
菓子	1.0	0.1	2か月連続プラス*
惣菜	0.4	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	-1.2	-0.1	6か月連続マイナス*
食料品	-0.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-1.7	0.0	6か月連続マイナス
サービス	-0.8	0.0	2か月ぶりマイナス
その他	-5.8	-0.1	2か月連続マイナス
商品券	5.0	0.1	41か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>